

講義名	教養特講（東洋史）			授業形態	
担当教員	小野 達哉	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要
東洋の近代史は、日本の影響が著しいとはいえ、中国の問題を焦点に展開してきたといっていよい。19世紀以降の中国は、清王朝の衰退が露わになる中で、国内では民衆反乱に相次いで見舞われ、国外からは西洋列強の侵略・進出を受け、内憂外患に晒されていた。そうした状況下、改革運動が相次いで挫折する中で、革命運動が盛り上がりを見せ、辛亥革命・中華民国の成立を迎えるが、その後は専制・改良・革命のいずれの路線を選択するかをめぐって、なおも政治路線の模索と混乱が続くことになった。こうしたテーマは単に歴史を理解するだけに止まらず、現代の中国を考える上でも重要な論点となるだろう。この授業は、中国近代史を東洋史全体の流れの中で理解することを目的とし、受講学生がこれらの基本知識を修得し、自己のあり方を歴史の中に位置付けて考えられるようになることを目指す。

到達目標
中国史の基本事項について理解し説明できる。 中国近現代史の流れを理解し説明できる。 中国の現代化象について理解し説明できる。 自己と近現代史とのつながりを理解し説明できる。

提出課題
毎回授業時に実施する小テスト

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
毎回の授業時におこなう小テストで、学生の講義の理解度を確認し、それに必要に応じてコメントを付して返却するつもりである。

評価の基準
毎回授業時の平常点と、期末試験の総合評価とする。毎回授業時の課題提出だけでなく、学期末に定期試験を実施するので、その旨注意されたい。

履修にあたっての注意・助言他
この講義は予備知識は必要としないので、その点は安心して受講してくれてよい。ただし、東洋史に限らず、日本史・西洋史など歴史全般に関心を持ってもらいたいと思う。

教科書
.使用しない。
参考図書
.なし。

その他
講義ではプリントを使用する。参考文献は授業時に随時指示する。

授業計画
【第1回】 テーマ：清帝国の斜陽 内容：19世紀前半の嘉慶時代の中国国内・国外問題について説明する。 【第2回】 テーマ：2つのアヘン戦争 内容：アヘン戦争・アロー戦争による対外関係の変化について説明する。 【第3回】 テーマ：太平天国 内容：太平天国の乱・捻軍の乱など19世紀後半の民衆反乱について説明する。 【第4回】 テーマ：洋務運動と変法運動 内容：清末の2つの改革運動が挫折を余儀なくされる過程について説明する。 【第5回】 テーマ：義和団事件 内容：排外運動の高まりが中国に如何なる結果をもたらしたかを説明する。 【第6回】 テーマ：中国分割 内容：20世紀初めの中国が如何なる国際的環境に置かれたのかを説明する。 【第7回】 テーマ：立憲と革命 内容：20世紀初めの2つの政治路線の相剋・消長について説明する。 【第8回】 テーマ：辛亥革命 内容：辛亥革命から中華民国の誕生までの過程について説明する。 【第9回】 テーマ：軍閥混戦 内容：1910—20年代の軍閥の割拠により政局が混沌する様相を説明する。 【第10回】 テーマ：五四運動 内容：新文化運動が中国の思想・文化を如何に指導し変えたかを説明する。 【第11回】 テーマ：国民革命 内容：国民党・共産党の誕生、および両党の協調・対抗関係について説明する。 【第12回】 テーマ：日中戦争 内容：1930年代の戦時下の中国人の生活・動員状況について説明する。 【第13回】 テーマ：人民中国 内容：中華人民共和国誕生までの過程と今後の政治状況を説明する。 【第14回】

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
【第1回～15回】 予習：前回の講義時に示した授業のキーワードを辞書等で調べておく（120分程度） 復習：プリントの見直し、穴埋め内容の確認をする。返却を受けた小テストを解き直す（120分程度）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
全学対象の教養科目であるため、「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身に付けておくべき資質・能力」(1)～(5)の習得を目指す。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
授業は学生に随時発問しながら進めるが、特段ICTを活用することはない。

実務経験の有無及び活用
なし

備考
なし